

CP-2024-

基礎能力 I

試験問題

注意事項

- 問題は **24 題(36 ページ)**で、解答時間は **2 時間**です。
- この問題集は、本試験種目(基礎能力試験 I 部及び II 部)終了後に持ち帰りができます。
- 基礎能力試験 II 部の途中で退室する場合は、退室時の問題集の持ち帰りはできません。退室時には、基礎能力 I 及び基礎能力 II の問題集を回収し、希望する方には後ほど渡します。別途試験官の指示に従ってください。なお、試験時間中に、この問題集を切り取ったり、転記したりしないでください。
- 下欄に受験番号等を記入してください。

第 1 次試験地	試験の区分 教 養	受験番号	氏 名
----------	--------------	------	-----

指示があるまで中を開いてはいけません。

【No. 1】 次の文の内容と合致するものとして最も妥当なのはどれか。

環境とはそこで生物が生活する世界であり、生活の場である。しかしそれは単に生活空間といったような物理的な意味のものでなくて、生物の立場からいえばそれは生物自身が支配している生物自身の延長である。もちろんこういったからといって環境は生物が自由につくり自由に変え得るものではないのである。環境をどこまでも生物の自由にならない、その意味において生物自身に対立するものと見るならば、その環境はわれわれの身体の中にまで入り込んで来ているばかりでなくて、実はわれわれの身体さえ自由につくり自由に変えることができないという点では、これを環境の延長と見なすこともできるであろう。生物の中に環境的性質が存在し、環境の中に生物的性質が存在するという事は、生物と環境とが別々の存在でなくて、もとは一つのものから分化発展した、一つの体系に属していることを意味する。その体系というものは、広い意味ではこのわれわれの世界全体が一つの体系ということにもなるが、一匹一匹の生物がそれぞれの世界の中心をなしているという意味からいえば、その生物とその生物の環境とでやはり一つの体系をつくっているといえるのである。

そしてこの生物と環境との相互作用によって成り立った体系において、環境は一応物質または物質を代表するものというように考えられてよいであろう。だからわれわれの身体までが、その意味において環境の延長と見なし得られるわけである。これに対して生物の方は、生命または精神を現わす側にあるものであり、環境を生物の延長とみることはすなわち環境の生命化であり精神化でなければならぬ。それにもかかわらずいままで生物と環境というような問題を取扱う場合には、研究者はいつも生物の立場をとらないで環境の立場をとり、環境の物質的性質を介して生物なるものを解釈しようという態度をとる場合が多かったのである。もちろんこういう態度をとることが、生物学の研究方法として間違っているというのではない。生物の立場をとるということは、どんな生物にだって同じ程度にその適用が許されているのではないからして、われわれの類推がきかないような下等な動物や植物の生活を、環境の物質的性質でもってはかり、これによってそれらの生物を知ろうというのは、確かに客観的科学的な態度として認められるであろう。けれどもこのようにしていれば環境によって翻訳され、環境によって定義された生物が、はたして具体的な生物のそのままの姿を現わしているといえるだろうか。環境は確かに生物がこれを自由につくったり変えたりはできないものである。しかしそうかといって生物はけっして環境に支配され、環境の規定するままに一切の自由を失ったものとはいえないのである。むしろ生物の立場にたっていえば、絶えず環境に働きかけ、環境をみずからの支配下におこうとして努力しているものが生物なのである。環境のままにおし流されて行くものなら、われわれは何もそこに自律性や主体性を認める必要はないのである。それならば単なる機械にすぎない。

ここにだから環境の側に立って生物を解釈する際に、われわれが注意しなければならない点が潜んでいるのである。すなわちそれが方法論として間違っただけではなくとも、それから導き出された結果として、環境が生物のすべての行動を決定するもののごとく解したならば、この解釈は明らかに間違いであるといわねばならない。

1. 環境は生物自身が支配している生物自身の延長であり、生物は環境の延長であるというように、それぞれの中に互いの性質が存在することは、生物と環境が一つの体系に属していることを示している。
2. 物質または物質を代表するものが環境であり、生命または精神を表現するものが生物であるという対立構造は、生物が長い時間をかけて進化する中で、次第に深まっていった。
3. 生物と環境は互いに作用し合っているが、環境が生物に与える影響は大きいため、近年、環境は生物に対して優位な立場にあるという観点から研究が行われることが多くなっている。
4. 環境の物質的性質を介して生物を解釈しようとする生物学の研究方法は、生物と環境を分離して生物そのものの機能や構造を研究する方法と比べて、生物そのままの姿を具体化できているかは疑問がある。
5. 生物は、環境を自由につくり変えることはできず、環境に働きかける自律性や主体性は認められないが、環境に規定されるままにおし流されるものではないということを、環境を介した生物学の研究によって明らかにする必要がある。

【No. 2】 次の文の内容と合致するものとして最も妥当なのはどれか。

各地の民族紛争についてよく指摘されるのは、ある時期まで平和的・友好的に共存していた諸民族・エスニシティが、あるとき突然激しい対立に陥ったということである。もっとも、細かく見るなら、友好的共存が支配的だった時期においても個別的な対立・紛争などはあっただろうが、それは比較的低いレベルにとどまっていたのが、いくつかの条件の重なりの中で、驚くほど激しいレベルにまで高まったということだろう。問題なのは、あるときまで潜在的だったり、穏和だったりした紛争が顕在化し、次第にエスカレートし、ついには大規模な暴力に至るメカニズムはどのようなものか、それを予防するにはどうしたらよいのかという点にある。

「身内」と「他者」の区別は、それだけで紛争をもたらすとは限らないが、資源の稀少性——経済的富であれ、政治権力であれ、社会的名誉感情その他であれ——と結びつくとき、紛争に導きやすい。もっとも、稀少性という事実自体は至る所にあるもので、そのすべてが深刻な性格を帯びるわけではないが、ある局面でそれが特に強まる——あるいは、強まるだろうと予期される——とき、稀少資源をめぐる紛争が激化する。そうした紛争の中で、「われわれ集団」の連帯意識が利用され、紛争が「われわれ」対「彼ら」という形をとるなら、そのことによって集団間の対抗感情が強められる。また、ある集団内の個人がそれまではそれほど強い一体感をもっていなかったとしても、紛争の過程で「身内」としての一体感を強めることになる。

この場合、紛争に動員される連帯感情がどういう性格のものであるかは多種多様であり、特定のタイプの「身内」意識が特に紛争を激化させるということが、あらかじめ決まっているわけではない。しかし、ともかく何らかの「身内」意識・親近感・連帯感情がある程度存在し、それが紛争の過程で利用されることによって、よりいっそう強烈なものへと煽り立てられていく。こう考えるなら、事前にあったそうした感情は、それ自体として紛争の決定要因であるわけではないが、いったん動員され、煽り立てられると、一種の自己運動を起こし、收拾が非常に困難になる。

《中 略》

暴力的な衝突およびそのエスカレートを避けるためには、何が必要だろうか。この点に関して、「寛容」「開放性」「相互理解」等の精神が重要だということは古くから言い尽くされてきた。これらの言葉は紛争のエスカレートを防ぐ理性的な態度を象徴するとされ、「不寛容」「閉鎖的」「排他的」等の言葉は、逆に紛争エスカレートに通じる危険な態度だとされる。

そのこと自体は一般論的にいえばそのとおりであり、とりたてて異を唱えるべきことではない。だが、具体的な個々のケースにおいて、どの勢力が「寛容」で、どの勢力が「不寛容」かを判定するのは、容易とは限らない。国際社会の眼を意識する当事者たちは、しばしば自分たちの方が寛容だということを言葉の上で強調し、相手方が排他的・侵略的態度をとっているためにやむを得ず防衛措置に追い込まれたのだと説明する。現代社会において露骨に「領土拡張」「余所者排斥」「民族浄化」等々を自ら掲げる政治勢力は稀であり、これらの言葉はむしろ外から貼られた政治的レッテルとして機能することが多い。そして、「不寛容で排外的な敵」による攻撃から自らを守るためという意識に基づいた行動——主観的には対抗的・防衛的措置だが、相手方から見れば一方的攻勢と受け取られる——が紛争を悪循環的にエスカレートさせることが珍しくない。

1. 紛争の決定要因は何らかの「身内」意識・親近感・連帯感情にあり、集団内の各個人がその集団に対する一体感をどれほど強く感じていたかが、紛争のエスカレートの重要な要因である。
2. 民族紛争の激化を防ぐためには、古くから言われてきたように「寛容」「開放性」「相互理解」等の精神が重要である。そのため、国際社会は、紛争当事者のうちどの勢力が「寛容」か「不寛容」かを見極めて、排他的な勢力への対抗措置を講じる必要がある。
3. 紛争の過程で利用され煽り立てられた「身内」意識は増幅し、収束困難となりやすい。また、紛争の当事者たちは、双方に相手方が排他的・攻撃的であると捉え、主観的には対抗措置となる行動をとることがあり、そうした行動が紛争の悪循環を招きがちである。
4. 「領土拡張」「余所者排斥」「民族浄化」といった露骨な政治的レッテルは、国際社会に対しては自集団の排他的・攻撃的態度を示すだけであるから、あくまでも「身内」としての一体感を強めるために集団内で使用されている。
5. 紛争当事者のうち、どの勢力が「他者」に対して「不寛容で排他的」な態度を取るかは、経済的富や政治権力といった稀少資源の量的差によって決定される。そのため、資源の稀少性の問題を解決することによって、紛争の過程で煽り立てられた「身内」意識の收拾が可能となる。

【No. 3】 次の文の内容と合致するものとして最も妥当なのはどれか。

贈与的次元をうちに含む責任・義務は、どうしても通り抜ける道のないアポリアをなす部分、のり越えることの難しい、不可能なものである部分につきまといわれている。

カントが重視した区別を思い出そう。すなわち、真にモラル的価値を持つためには、「義務に適合して、義務に従って」行為するのではなく、「純粋に義務から発して」行為するのではない、という区別である。さらにまた、別様に言いかえると、「法＝規範に従って」行為するのではなく、「法＝規範から発して」行為するのではない、あるいはむしろ「法＝規範を目指して」行為するのではない、という区別である。

こういう区別は、見たとおり、権利上は正当なものであり、つねに説得力を持っているが、しかし事実上は純粋に「義務から発して」行為することと、「義務に適合して、義務に従って」行為することとは、絶えず混ざり合う領域を持っているので、両者は混交され、汚染されており、その区別は厳密には維持されない。二分法的なやり方で、純粋に「義務から発してふるまう」のか、それとともに「義務に従ってふるまう」のかを区別することが確実に維持されるというのはいない、不可能なことである。

純粋に「義務から発して」行為すること、「法を目指して」行為する、「法への尊敬の念に発して」行為するということは、たしかに望ましいふるまい方であり、求められる実践の仕方であるけれども、しかしつねに不可能なものである部分につきまといわれている。だが、それでも、純粋に「義務から発して」行為する、「法から発して」行為する、あるいは「法を目指して」行為するということが、言いかえれば「法への尊敬の念に発して」行為するということの持つモラル的価値は、根本的に見れば、揺らぐわけでも、減じられるわけでもないだろう。

むしろ、逆である。

贈与的次元をうちに含む義務、正しさ。そこから発するふるまい。そういうふるまい・行為が、決定しえない、不可能なものという試練に巻き込まれ、絶えず中断されること。中断されつつ、疑問符のうちに投入されて、つねに問い直されること。つまり、真にモラルとしての価値を持つ行為なのか、たんに「義務に従って」、「法に従って」行為するだけではないのか、ほんとうに「義務から発して」、「法から発して」行為するのか、あるいは「義務を目指して」、「法を目指して」行為すると言えるのか、という問い直しを絶えず受けること。このように、モラル的な行為の価値が決定不可能なものという試練につねにさらされること、中断され、ほとんど宙吊り状態にとどめられ、深く問い直されること。これは、一方から見れば、危機的であろう。

だが、しかし、他方では、それこそが好運^{チャンス}なのである。純粋に「義務から発して」ふるまい、行為すること、「法から発して」行為すること、「義務を目指して」、「法を目指して」行為するということに、もう一度力を与え、非最終的なもの、非完了なもの＝完了しえないものとして再開するよう促すのだ。改めて〈また新たに生きられる〉よう促すのであり、つねに異なる何か、差異化された、他なる、未知なる何かとして〈さらにもう一度、また新たに〉経験されるよう推進するのである。

1. 純粋に「義務に適合して」行為することと、たんに「義務に従って」行為することとの間では、それらの行為には混ざり合う領域があるため、区別を維持することは不可能である。
2. 「法を目指して」行為することは望ましいふるまい方であるが、「法に従って」行為することとは不可分であり、結果としてこれらの行為は、両者とも求められる実践の仕方となる。
3. 「法への尊敬の念に発して」行為することにより、「法＝規範に従って」する行為のモラル的価値は揺らぐことも減じられることもないという前提が成立しなくなり、その価値は危機的なものとなる。
4. 贈与的次元をうちに含む義務から発するふるまいは、真にモラルとしての価値を持つ行為なのか、という問い直しを絶えず受けるが、それこそが、純粋に「義務から発して」ふるまうことを再開するよう促すのである。
5. 「法から発して」行為することによって、つねに異なる何かとして経験されるよう促され、これにより、「義務に従って」行為することにも新たな価値を持たせることとなる。

【No. 4】 次の文の に当てはまるものとして最も妥当なのはどれか。

「わたし」という表現は、だれもがそれぞれに「わたし」であることへの理解を前提にしている。「わたし」はこのわたしについてのみならず、すべてのひとについて言われうるものであることへの理解、それが「わたし」という言葉を使えるための条件である。それは、「わたし」は「あなた」にとっては「あなた」であり、「あなた」は「あなた」にとっては「わたし」であるという相互性の理解であると言ってもよい。その意味で、「わたし」はこのわたしに由来するものではない。「わたし」はわたしだけのものではないのである。

「こころ」と呼ばれ「からだ」と呼ばれてきたものが「わたしのこころ」、「わたしのからだ」と呼ばれるとき、そこにはもう〈制度〉というものが挿し込まれていることは、以上のことからわかる。「わたし」という観念の配分、もしくは宛て先、つまりは帰属という問題がここには挿し入れられているからである。この「こころ」、この「からだ」はだれのものか、という問題である。

この「こころ」、この「からだ」がだれのものであるかという問題は、これまた自明のことではない。この「こころ」、この「からだ」はそれを生きている当の者、つまりは「わたしのもの」であるということとは観念的にはあたりまえのことのように見えるが、じっさいの感覚としては不明なところがある。まる一日、じぶんの身体を、あるいはその活動を、「わたしの」身体として生きているひとなどいまい。わたしは日常の大半、だれかのために身体をせわしなく動かしている。「これはわたしの身体でありながらわたしのものではない」というのが、会社や家庭で働いている者の実感であろう。「わたしのものではない」というのが言い過ぎであるとしても、すくなくとも「わたし独りのものではない」とは実感しているはずだ。じぶんの思いどおりに身体を動かせたら(あるいは、遊ばせられたら)苦労はない、と。また、それらの活動のなかでも多くのばあい、身体は習慣というかたちで、動かすという意識もなしにいわば自動的に動いているものである。半身麻痺のばあいのように、身体の一部に感覚がおよばず動きがとれないこともある。そもそも随意運動がほとんど不可能なケースもある。

「こころ」の活動、つまり考えや思いについても、同様のことが言える。人びとが交換している言葉のなかに生まれ落ち、言葉の網の目のなかでみずからの考えや思いを紡いできたわたしたちにとって、。わたしの考えは人びとのあいだを流通する言葉によって編まれている。これまで読み聴きしてきたさまざまな言葉によって編まれている。厳密に言えば、わたしが独りで編みだした思想などというものはありえない。「わたしの」考えとはいえ、じつは「引用の織物」でしかないというのが、多くのひとがものを語り、書くときの正直な思いであろう。

1. 「わたしのこころ」だけがこのわたし独りのものと言える
2. わたしだけの言葉というものはそもそも存在しない
3. 「こころ」は、「わたしのからだ」によって動かされている
4. わたし独りの言葉を編みだすことが重要なのである
5. 言葉の帰属はつねに感覚的に判断されている

【No. 5】 次の文の内容と合致するものとして最も妥当なのはどれか。

A forgotten bundle of love letters sent to French sailors more than 260 years ago — but never before opened or read — has been discovered among British naval archives, revealing intimate details of 18th-century marital and family life.

The remarkable stash of more than 100 letters was discovered by chance at the National Archives in Kew by Renaud Morieux, professor of European history at the University of Cambridge, who asked archivists if they could be opened so he could read them for the first time.

Inside, he found deeply personal and often passionate messages intended for the sailors, who had been captured in 1758 onboard a French warship during the Seven Years' War.

“I cannot wait to possess you,” wrote one naval wife, Anne Le Cerf, to her husband, Jean Topsent, a phrase that can be translated as “embrace” or “make love to you”. She signed her note “Your obedient wife Nanette”, an affectionate nickname. Topsent, a noncommissioned officer*, was imprisoned in England and would never receive the letter.

《中 略》

The letters were intended for the crew of the Galatée, which was sailing from Bordeaux to Quebec when it was seized by a British vessel and taken to Portsmouth, where they were imprisoned.

The French postal administration had been trying for months to deliver letters to the ship from the crew's loved ones, sending copies to ports in France — as was common practice at the time — in the hope of catching the vessel before it sailed. When it heard the Galatée had been captured, it forwarded the letters to the admiralty in London, hoping they would be passed on to the prisoners.

Instead, after establishing the correspondence contained nothing of military value, the British authorities put the unopened letters in storage, where they would be forgotten for centuries until discovered by chance by Morieux.

《中 略》

With 59% of the letters written by women, Morieux said they “shatter the old-fashioned notion that war is all about men. While their men were gone, women ran the household economy and took crucial economic and political decisions”.

He added: “These letters are about universal human experiences, they're not unique to France or the 18th century. They reveal how we all cope with major life challenges.”

(注) * noncommissioned officer : 下士官

1. 260年以上前から英国海軍の記録保管所に保存され続けてきた100通以上の手紙を、手紙の名宛人の子孫である Morieux 教授が学芸員に頼んで探し出し、子孫として初めて読むこととなった。
2. Topsent の妻は、夫への手紙で「embrace」などと書くべきところを「possess you」と間違えて書いていた。その Topsent は英国で投獄中に死亡したため、手紙を受け取ることはできなかった。
3. フランス郵政当局は、Galatée 号の船員に宛てられた手紙を、同号の出航前に届けるべく港へ送ったが、同号は既に英国船に捕らえられていた。そこで、手紙はロンドンの海軍本部に転送された。
4. 戦争で夫が家を離れたため、家に残された妻は、経済的・政治的な決断を下すことができず苦労することとなった。そのため、公開された手紙の59%は夫にその判断を求めるものだった。
5. 今回公開された手紙は、特に七年戦争中のフランスの人々が、その時代特有の方法で、それぞれの人生の困難にどのように対処していたのかを示している点で、人類の大切な資料である。

【No. 6】 次の文の内容と合致するものとして最も妥当なのはどれか。

Allocating^{*1} land for people to use is one of the most powerful tools a government can have. A newly published study by an MIT scholar now identifies the extent to which state land distribution can be a politically charged act.

The research, focused on Kenya in recent decades, challenges some conventional wisdom while bringing new empirical data to the subject. To explain the “property rights gap” in some countries — in which people do not own the land they work on — numerous scholars have concluded that many nation-states are too “weak,” and lacking in administrative capacity, to grant extensive rights.

This study finds something different: Even supposedly low-capacity states can grant land rights, but they generally choose not to, especially when autocratic^{*2} leaders are in charge. Instead, property rights are granted more frequently when democratic regimes are in power — though these decisions are made seemingly to bolster electoral support.

“It’s clear the state is very able and willing to give out property rights at certain moments in time, when it makes political sense for them,” says MIT political scientist Mai Hassan, co-author of a new paper detailing the study’s findings.

“We found that property rights were much more likely to be given out, and the property rights gap more likely to close, under electoral democracy,” Hassan adds. “During autocratic periods, if the property rights gap narrowed at all, the property rights gap was more likely to close only for the autocrats’ core supporters in society.”

The paper, “Closing the Gap: The Politics of Property Rights in Kenya,” is published in this month’s issue of *World Politics*. The authors are Hassan, an associate professor in MIT’s Department of Political Science, and Kathleen Klaus, an associate senior lecturer at Uppsala University in Sweden.

About one-third of all countries have attempted major land reforms in the last century, and many experts believe full property rights make land use more efficient and spur economic growth. However, scholars estimate that 2 billion people globally still farm land to which they have no formal rights.

Researching land rights grew out of ongoing work Hassan and Klaus have each conducted about Kenya for more than a decade.

“You can’t understand the Kenyan state without thinking about land and how it is administered, and who owns it, and the rules around ownership and property rights,” Hassan says.

(注) *1 allocate : 分配する *2 autocratic : 独裁的な

1. Hassan 氏らによる研究は、ケニア国民の実際のデータを用いた実証研究により、土地の所有権と政府の関係に関する従来の理論を裏付ける結果となった。
2. Hassan 氏らによる研究は、ケニアにおける土地の所有権の格差の大きさは、独裁的な政権の時代と民主的な政権の時代のどちらにおいても同程度であり、政権に影響されないことを示した。
3. Hassan 氏は、ケニアにおいて独裁的な政権の時代に土地の所有権の格差が小さくなる原因は、独裁者が、新たな支持者を獲得するために、低所得者へ土地の所有権を付与するためだと指摘している。
4. 前世紀には、世界の約 3 分の 1 の国において土地改革が行われたが、今なお世界で 20 億人の人々が、正式な権利を持たない土地で農業を営んでいると考えられている。
5. Hassan 氏は、ケニアにおいて土地の所有権の格差が生じる原因は、行政の管理能力が弱いことにあると指摘している。

【No. 7】 次の文の内容と合致するものとして最も妥当なのはどれか。

Social media can be harmful. That’s something all behavioral researchers can agree on. There is much less consensus on how exactly its harmful use is defined, and whether or not there’s a corresponding beneficial way to use social media. And at the very center of this academic debate is the question: Can a person become addicted to social media?

Settling on an answer to this question has a surprising number of implications: for the internet, for policy, and even for people who suffer from or treat more well-defined forms of addiction. Attempts to do so have resulted in fairly conflicting findings, explains Niklas Ihssen, an associate psychology professor at Durham University in the U.K. In particular, some studies suggest abstaining from^{*1} social media can improve mood and well-being, while others seem to argue that stepping away from the screens can cause serious withdrawal effects that mirror those present in chemical addictions. “There’s tension between those two strands of research,” Ihssen says.

A new study, led by Ihssen’s postgraduate student Michael Wadsley and published Nov.8 in the journal *PLOS ONE*, attempts to reconcile this conflict. Using activity-tracking apps and surveys, Wadsley and Ihssen followed 51 students for 15 days, including a week during which they were instructed to avoid social networking sites including Facebook, Instagram, and TikTok. The participants were then brought in for final surveys and exercises afterward. Around a third of the participants had existing social-media behaviors that qualified as problematic, or harmful to their functioning, on the most widely-accepted scale of social-media behavior.

Wadsley and Ihssen searched in the participants’ responses for symptoms of withdrawal in line with those found in substance-use disorders, such as relapses^{*2} and increased consumption following abstinence^{*3}. Though 87% of the participants weren’t able to stay off of social media entirely, their use time decreased to an average of 30 minutes, down from between three and four hours per day, and remained lower than before even after the week of abstinence had passed. “If there’s something like withdrawal, we would expect those cravings to go up after a while,” says Ihssen. But in both usage time and in the results of a test given to participants at the end of the week that recorded their reactions to seeing social media app icons, the sharp craving the chemical effects of withdrawal can cause just didn’t manifest as expected.

(注) *1 abstain from : ~を控える

*2 relapse : 再発、ぶり返し

*3 abstinence : 自制、禁欲、節制期間

1. ソーシャルメディアは有害である可能性があることについては、全ての行動科学の研究者が合意するものの、その利点については、研究者間で二分化した論争があり、双方譲らずに数年間の緊張状態が続いている。
2. ソーシャルメディアへの依存症に苦しみ治療を求める患者からの訴えに基づき、依存症の定義と治療法を確立するための学術的な研究が、英国で初めて開始された。
3. 研究結果に基づき、ソーシャルメディアへの接触を抑制することにより気分の改善を図る治療法や、化学物質を投与する治療法など、依存症に対するいくつかの治療法が推奨されている。
4. Wadsley と Ihssen は、ソーシャルメディアに関する研究において、インスタグラムなどのソーシャルネットワーキングサイトを1週間避けるよう参加者に指示し、その後の参加者の反応を調べた。
5. 英国の約3分の1の国民がソーシャルメディア行動において禁断症状など何らかの問題を有することを明らかにした Wadsley と Ihssen の研究は、学术界で高い支持を得ている。

【No. 8】 次の文の内容と合致するものとして最も妥当なのはどれか。

Most people don't realise just how many pollutants are swirling around indoors, where they typically spend most of their time. For example, many of the products we use for cleaning and freshening our homes, schools and workplaces are adding invisible toxins to the air.

《中 略》

Indoor air pollution is highly complex, little regulated, and often beyond individual control. For instance, road traffic produces nitrogen dioxide, while moisture and structural issues in buildings can lead to mould. Air purifiers with high efficiency particulate air (HEPA) filters can help. But the initial cost plus the energy to run them can be out of reach for some households.

This is one reason that it's so appealing to think of potted plants as passively, and inexpensively, cleaning the air. Essentially, plant leaves take in carbon dioxide and other pollutants, which are then used in various plant processes or broken down.

Especially important here are the community of micro-organisms and the growing medium (such as soil or compost), which in many studies do more to absorb pollutants than the plant itself. An influential NASA study from 1989 found that indoor plants could remove formaldehyde^{*1} and other volatile organic compounds (VOCs)^{*2} from the air. But the study was unrealistic for real-world conditions.

In essence, an indoor forest would be required to meaningfully reduce VOCs in a home. "You need an awful lot of plants in very well-lit space to make any measurable impact on the removal of VOCs and many other gases," says Tijana Blanusa, the principal horticultural scientist for the Royal Horticultural Society, as well as a researcher at the University of Reading. Similarly, for carbon dioxide, "you need very large numbers of plants to actually have measurable effects at room scale." So is scaling-up the answer?

Some researchers, including Tijana Blanusa, have moved on from individual potted plants to active (living) green walls, which can concentrate more plants and also filter air more efficiently due to the way air can be moved through them. She explains that with active green walls: "Air from the room is being pushed or encouraged through the root systems over and above the level which would happen naturally if you just had the plants sitting in a pot." However, such green walls are expensive to install and maintain.

(注) *¹ formaldehyde : ホルムアルデヒド

*² volatile organic compounds (VOCs) : 揮発性有機化合物

1. 人々が空気を新鮮だと感じる時には、その空気中に、植物が放出する特定の化学物質が浮遊している。
2. 室内の空気汚染の仕組みは長らく不明とされていたが、近年の研究により、室内の湿度や構造の問題などが原因であることが発見されたため、個人による対策がしやすくなった。
3. NASA による過去の実験によって、植物本体が吸収する空気中の汚染物質の量は、土壌や植物の葉に生息する微生物が吸収する汚染物質の量を上回ることが示された。
4. 空気中の揮発性有機化合物などを減少させるために室内に植物を置く場合、大量の植物を置かない限りは、実質的な効果は期待できない。
5. HEPA フィルターは、グリーンウォールと比べて、空気洗浄の面では高い効果が得られるものの、維持費用が高いという欠点がある。

【No. 9】 次の文のA、B、Cに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

Few of us start the day without a to-do list, but they can hurt as much as they help. For every item checked off, another hits an unexpected obstacle and two more tasks get added. By the end of the day, our to-do list is often longer than it was in the morning, deflating any sense of progress.

Taking the opposite tack — a “done” list — can give you that burst of motivation that to-do lists sometimes fail to inspire, die-hard practitioners say. Instead of obsessing over what you *still have* to do, take an inventory of everything you’ve *already* A.

The idea is to recognize small wins, no matter how mundane. Together, they can add up to a greater sense of achievement, says Gretchen Rubin, who has written books about happiness and forming good habits.

Rubin calls hers a “ta-da” list. At the end of every year she and some friends gather to write them. They get out pads of paper, review their calendars, and compare notes about progress they’ve made toward their goals.

“You remind yourself of how much you’ve already accomplished, which is often really surprisingly easy to forget,” she says.

Often we try to motivate ourselves by focusing on a big, long-term goal like getting a new job or a new place to live. Trouble is, big accomplishments don’t happen every day, says Teresa Amabile, a Harvard Business School professor who co-wrote *The Progress Principle*, a book about finding joy in B at work. And long-term goals can leave room for discouragement to set in.

Smaller doses of progress can motivate us to do bigger things, she says, adding that managers can harness the principle, too. In a study, Amabile and her co-researcher, Steven Kramer (who is also her husband), asked more than 200 white-collar workers to write daily diary entries about the work they did, their emotions and other details about their workdays. The diaries showed that C a meaningful goal was the most common factor when people reported feeling happy in their work lives, which, in turn, is a key performance driver. Even an incremental step forward counted.

A	B	C
1. <i>done</i>	small victories	making progress on
2. <i>done</i>	big accomplishments	making progress on
3. <i>done</i>	big accomplishments	improving your to-do list for
4. <i>planned</i>	small victories	making progress on
5. <i>planned</i>	big accomplishments	improving your to-do list for

【No. 10】 次の と の文の間に、ア～オを並べ替えて続けると意味の通った文章になるが、その順序として最も妥当なのはどれか。

A nudge is not always enough to force change within an industry. Sometimes a series of forceful shoves is required. In the rarified world of Western philanthropy*, the shoves began in 2020. The covid-19 pandemic, protests for racial justice across America that summer and the outflow of refugees from Ukraine starting in early 2022 created a new urgency around charitable giving and revealed failings in how it worked. Donors began to consider how they could disburse money faster and with more impact.

ア： In the same year, she announced that she would give the money away “until the safe is empty”. As global problems spread in 2020, Ms Scott started handing out big grants, to organisations in America and across the world, with no strings attached. Without making any big declaration or setting up a charitable foundation, the quiet billionaire has since shelled out \$16.5bn.

イ： The reason Ms Scott could give so much so quickly is that she did away with the hoop-jumping and form-filling that have long defined philanthropy, especially for the past 20 years.

ウ： Just as the storm of global events was raging, a poster child for the new movement emerged. MacKenzie Scott received a 4% stake in Amazon when she and its founder, Jeff Bezos, divorced in 2019. It was worth \$38bn.

エ： For comparison, Chuck Feeney, an American duty-free tycoon who was one of the most generous philanthropists of recent times, had given out \$8bn by the time of his death in October. Andrew Carnegie, a 19th-century industrialist, gave away \$350m, worth \$6.2bn today.

オ： There was no lengthy application process to receive a grant from her. She contracted an independent firm to help her with strategy, do due diligence to check up on the NGOs, and then donate the money. Crucially, she decided not to police every decision recipients made in the name of monitoring and evaluation.

This kind of “no-strings giving” is not completely new. The William and Flora Hewlett Foundation, set up by a tech tycoon, has long given “unrestricted” grants that do not specify how they must be used. Since 2015 the Ford Foundation has put \$2bn into its Building Institutions and Networks (BUILD) programme, which hands recipients five years of funding, including a chunk of money dedicated to investments in the organisations themselves.

(注) * philanthropy : 慈善行為

1. ア→ウ→エ→オ→イ
2. イ→ウ→ア→オ→エ
3. イ→エ→ア→ウ→オ
4. ウ→ア→エ→イ→オ
5. ウ→イ→ア→オ→エ

【No. 11】 学生 50 人を対象に、日本史、東洋史、西洋史、地理の 4 科目の履修状況について調査したところ、次のことが分かった。このとき、論理的に確実にいえるのはどれか。

- 学生全員が 2 科目以上履修しており、3 科目のみ履修している学生は、1 人である。
- 西洋史を履修している学生は、地理を履修していない。
- 地理を履修している学生は、東洋史を履修していない。
- 日本史を履修していない学生は、6 人である。
- 地理を履修している学生は、東洋史を履修している学生より 9 人多い。
- 東洋史を履修している学生の人数は、西洋史を履修している学生の数と同じである。

1. 日本史と西洋史のいずれも履修していない学生は、2 人である。
2. 西洋史を履修しているが東洋史を履修していない学生は、9 人である。
3. 地理を履修していない学生は、15 人である。
4. 地理と日本史の両方を履修している学生は、30 人である。
5. 東洋史を履修しているが日本史を履修していない学生は、4 人である。

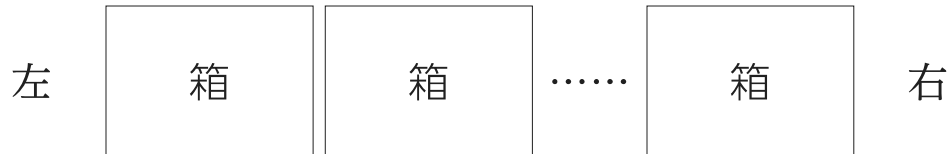
【No. 12】 1～6の数字が一つ書かれたカードがそれぞれ2枚ずつ、合計12枚ある。いま、A～Dの4人にこれらのカードが3枚ずつ配られた。次のことが分かっているとき、確実にいえるのはどれか。

- A～Dのうちどの2人の組合せでも、同じ数字が書かれたカードが1枚ずつ配られており、BとCの組合せでは、その数字は3か5のいずれかであった。
- Aに配られた3枚のカードに書かれた三つの数字は連続していた。
- Bには6が、Cには5が、Dには4が書かれたカードがそれぞれ配られた。

1. Aには、1が書かれたカードは配られていない。
2. Bには、2が書かれたカードは配られていない。
3. Cには、3が書かれたカードが配られた。
4. Cには、4が書かれたカードが配られた。
5. Dには、5が書かれたカードは配られていない。

【No. 13】 図のように、いくつかの箱が横一列に並んでいる。最初、これらの箱はいずれも空であり、次の①～④の手順でこれらの箱に果物を入れていく。

- ① 左から4番目の箱にマンゴーを3個入れ、右から3番目の箱にモモを2個入れる。
- ② 全ての箱の中から三つの箱を選び、リンゴをそれぞれの箱に1個ずつ入れる。
- ③ 全ての箱の中から三つの箱を選び、ミカンをそれぞれの箱に1個ずつ入れる。
- ④ 全ての箱の中から一つの箱を選び、キウイを2個入れる。



ここで、①～④の手順に従い果物を入れ終えたときの箱の状態について次のことが分かっているとき、確実にいえるのはどれか。

- マンゴーの入っている箱とモモの入っている箱は隣り合っている。
 - 全ての箱に奇数個の果物が入っている。
 - ある一つの箱には、4種類の果物が入っている。
1. 左から3番目の箱にはリンゴが入っている。
 2. 左から3番目の箱には2種類の果物が入っている。
 3. 右から4番目の箱にはキウイが入っている。
 4. モモはキウイと同じ箱に入っている。
 5. 果物が1種類のみ入っている箱の数は五つである。

【No. 14】 ある大学にはA～Eの五つの野球チームがあり、年度ごとに対戦成績の順位(1～5位)を競っている。これらのチームの令和3～5年度の順位について次のことが分かっているとき、確実にいえるのはどれか。

ただし、いずれの年度においても、二つ以上のチームが同じ順位になることはなかったものとする。

- 令和3～5年度において、Aは3位以下になったことはなく、また、B、Dは2位以上になったことはない。
- 令和3年度と令和4年度の順位が変わらなかったチームが三つある。また、全てのチームについて、令和4年度と令和5年度の順位は異なっている。
- Cについて、令和4年度は令和3年度よりも三つ順位が下がった。また、Eについて、令和5年度は令和4年度よりも四つ順位が下がった。

1. 令和3年度のAの順位と令和5年度のCの順位は同じだった。
2. 令和4年度のDの順位は5位だった。
3. 令和5年度のBの順位は3位だった。
4. Cについて、令和5年度は令和4年度よりも順位が下がった。
5. Dについて、令和5年度は令和4年度よりも順位が上がった。

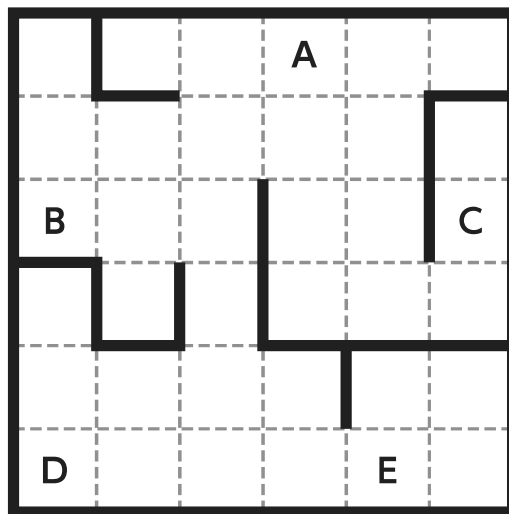
【No. 15】 ある会社で、次の性能を持ったエアコンを図Ⅰのフロアに導入する。A～Eを含む36区画のうち、五つの区画にエアコンを設置することで、フロア全域がエアコンの空調範囲内となり、かつ、各エアコンの空調範囲が重複しないようにする。このとき、エアコンを設置する五つの区画のうちの二つを挙げているのは、次のうちではどれか。

ただし、エアコンの空調効果は、図の区画単位で及ぶ。また、図の区画に沿った実線は天井まで達するフロアの壁を表しており、点線の箇所には壁は無い。

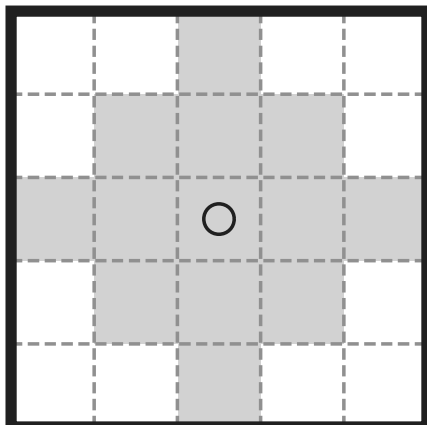
<エアコンの性能>

- ・ エアコンは天井に設置するタイプであり、フロア内のどの区画にも設置が可能である。
- ・ エアコンの空調範囲は、図Ⅱの灰色で示す範囲のように、エアコンを設置した区画(○の区画)から縦横に2区画先、斜めに1区画先までの範囲である。
- ・ エアコンの空調効果は壁を越えて広がらない。例えば、図Ⅲのような壁のあるフロアにおいて、○の区画にエアコンを設置したときの空調範囲は、灰色で示された範囲である。

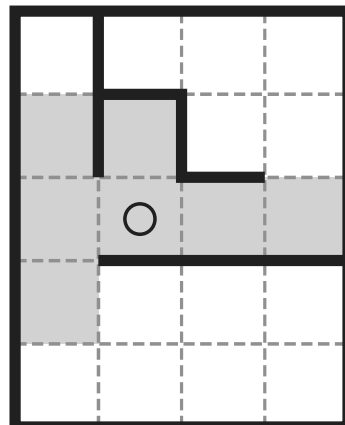
図Ⅰ



図Ⅱ



図Ⅲ



1. A、B
2. A、E
3. B、C
4. C、D
5. D、E

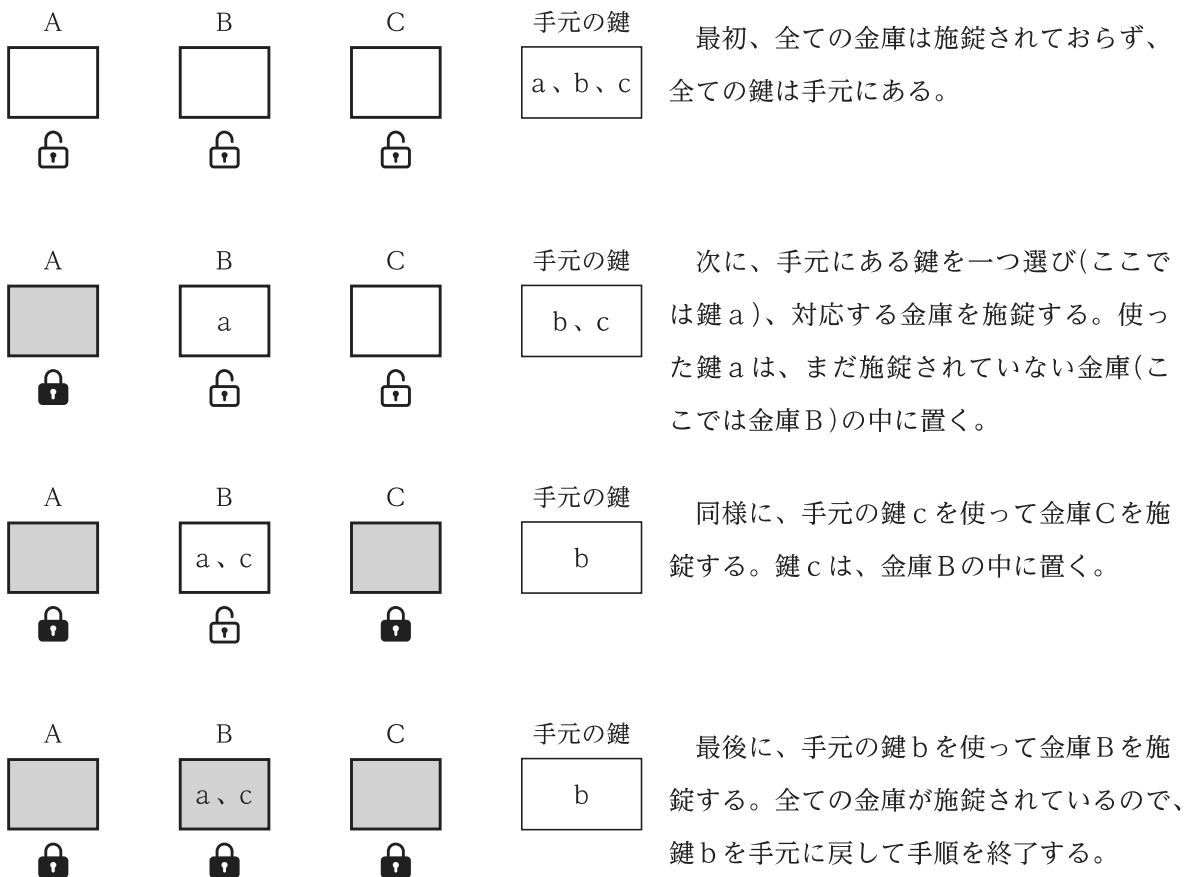
【No. 16】 A～Gの七つの金庫がある。全ての金庫には一つの錠が付いており、それぞれ対応する a～g の七つの鍵を使ってのみ施錠と解錠ができる(すなわち、鍵 a は金庫 A のみ、鍵 b は金庫 B のみ、…、鍵 g は金庫 G のみ施錠と解錠ができる)。最初、全ての金庫が施錠されておらず、かつ、全ての鍵が手元にある状態から始めて、次の手順に従い金庫を施錠する。

[手順]

手順 1 手元にある鍵を一つ選び、その鍵を使って対応する金庫を施錠する。

手順 2 手順 1 で施錠に使った鍵について、まだ施錠されていない金庫がある場合はそのうちいずれかの金庫の中にその鍵を置き、手順 1 に戻る。全ての金庫が施錠されている場合はその鍵を手元に戻し、手順を終了する。

例えば、金庫 A～C について、上の手順を実行したときの一例は、次のようになる。



いま、金庫A～Gについて前ページの手順を実行したところ、鍵aのみが手元にある状態で手順が終了した。手順終了後の状態について次のことが分かっているとき、金庫Dと金庫Gの中に置かれている鍵の状況を示している組合せとして最も妥当なのはどれか。

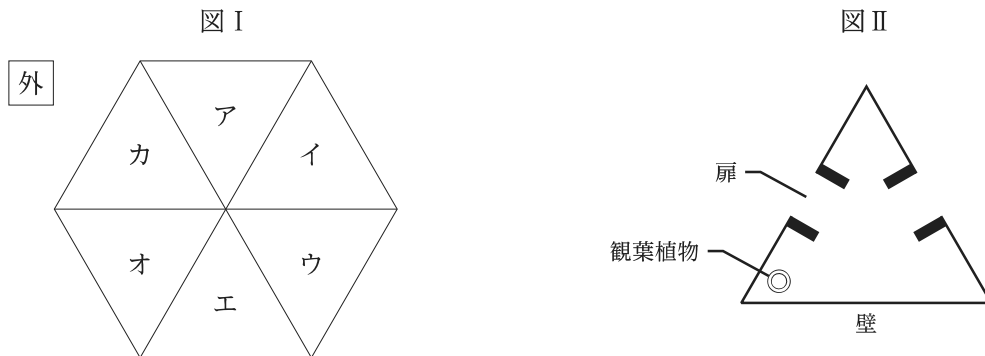
- 金庫Aの中には、鍵b、fのみが置かれている。
- 金庫Bは3番目に施錠され、その中には鍵eのみが置かれている。
- 金庫Cは5番目に施錠された。
- 手順終了後の鍵aのみが手元にある状態から始めて、金庫Dを解錠するのに必要な金庫のみを一つずつ解錠していく場合、金庫Dを解錠するまでに使う鍵の最少の数は、鍵aを含めて五つである。

金庫Dの中に置かれている鍵	金庫Gの中に置かれている鍵
1. 鍵は置かれていない	鍵cのみ
2. 鍵は置かれていない	鍵dのみ
3. 鍵は置かれていない	鍵c、dのみ
4. 鍵gのみ	鍵は置かれていない
5. 鍵gのみ	鍵cのみ

【No. 17】 図 I のような、ア～カの六つの正三角形の部屋が隣り合わせになっている家の見取図がある。それぞれの部屋には、扉が二つと観葉植物が一つあり、それぞれの部屋の見取図は、そのままの向きで、又は裏返さずに回転させると、図 II に一致する。

いま、これら六つの部屋に A～F の 6 人が 1 人ずつ住んでおり、各人の部屋について次のことが分かっているとき、確実にいえるのはどれか。

- A はオに住んでおり、F はカに住んでいる。
- B の部屋から E の部屋までは、C の部屋とその隣の D の部屋を経由することで、家の外に出ずに移動することができる。
- C の部屋から F の部屋までは、家の外に出ずに移動することはできない。
- E 及び F の部屋の観葉植物は、どちらも家の外に面していない。
- どの部屋についても隣り合う部屋どうしで扉と壁が重なることはない。



1. A の部屋の観葉植物は、家の外に面していない。
2. A の部屋から D の部屋までは、他の部屋を経由することで、家の外に出ずに移動することができる。
3. B の部屋の観葉植物は、家の外に面している。
4. B の部屋の隣の部屋に、A が住んでいる。
5. C の部屋の観葉植物は、家の外に面していない。

【No. 18】 1年生、2年生の4人ずつ計8人が赤組、白組のいずれかに所属しており、赤組には1年生1人と2年生3人が、白組には1年生3人と2年生1人がそれぞれ所属している。いま、各組からそれぞれ抽選で1人を選び、選ばれたメンバーどうしを入れ替え、その後、各組から抽選で1人ずつ代表を選んだ。このとき、各組から選ばれた計2人の代表が共に2年生となる確率はいくらか。

1. $\frac{9}{256}$

2. $\frac{9}{64}$

3. $\frac{27}{128}$

4. $\frac{21}{64}$

5. $\frac{45}{128}$

【No. 19】 1～16のそれぞれ異なる整数を 4×4 のマス目の一つずつ入れて、縦、横、対角線に並ぶ四つの数の和がいずれも34となるように配置する。整数が配置されていない図のマス目全てに整数を一つずつ入れたとき、A、B、Cのマス目の数の和はいくつか。

12		A	
	9		
1	C	7	
	4	11	B

1. 27
2. 28
3. 33
4. 35
5. 36

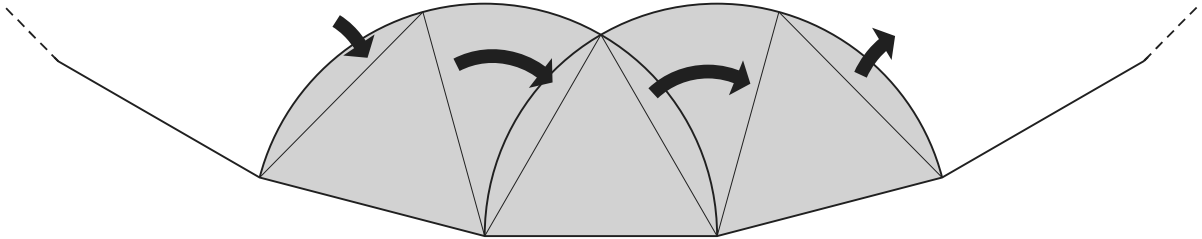
【No. 20】 ある池からポンプを用いて水を全て排出し、池を空にする。排水作業に用いるポンプは全て同じ能力で、起動から排水開始までに一定の始動時間を要し、ポンプの起動から池を空にするまでに要する作業時間は、1台用いた場合は90分、同時に3台用いた場合は40分である。この作業時間を20分ちょうどとするには、ポンプは何台必要か。

ただし、この池はポンプによる排水以外に水の流出入はなく、ポンプの排水開始から排水完了までの間の排水能力は一定とし、ポンプの始動時間はポンプの台数には影響されず、一定の始動時間後に一斉に排水を開始するものとする。

1. 5台
2. 6台
3. 8台
4. 9台
5. 15台

【No. 21】 1 辺の長さが 1 の正三角形が、1 辺の長さが 1 の正三十六角形の内側に、1 辺が重なるように置かれている。この正三角形が、図のように、滑らないように正三十六角形の辺に沿って転がって元の位置まで戻ってくるとき、正三角形が通過する領域の面積はいくらか。

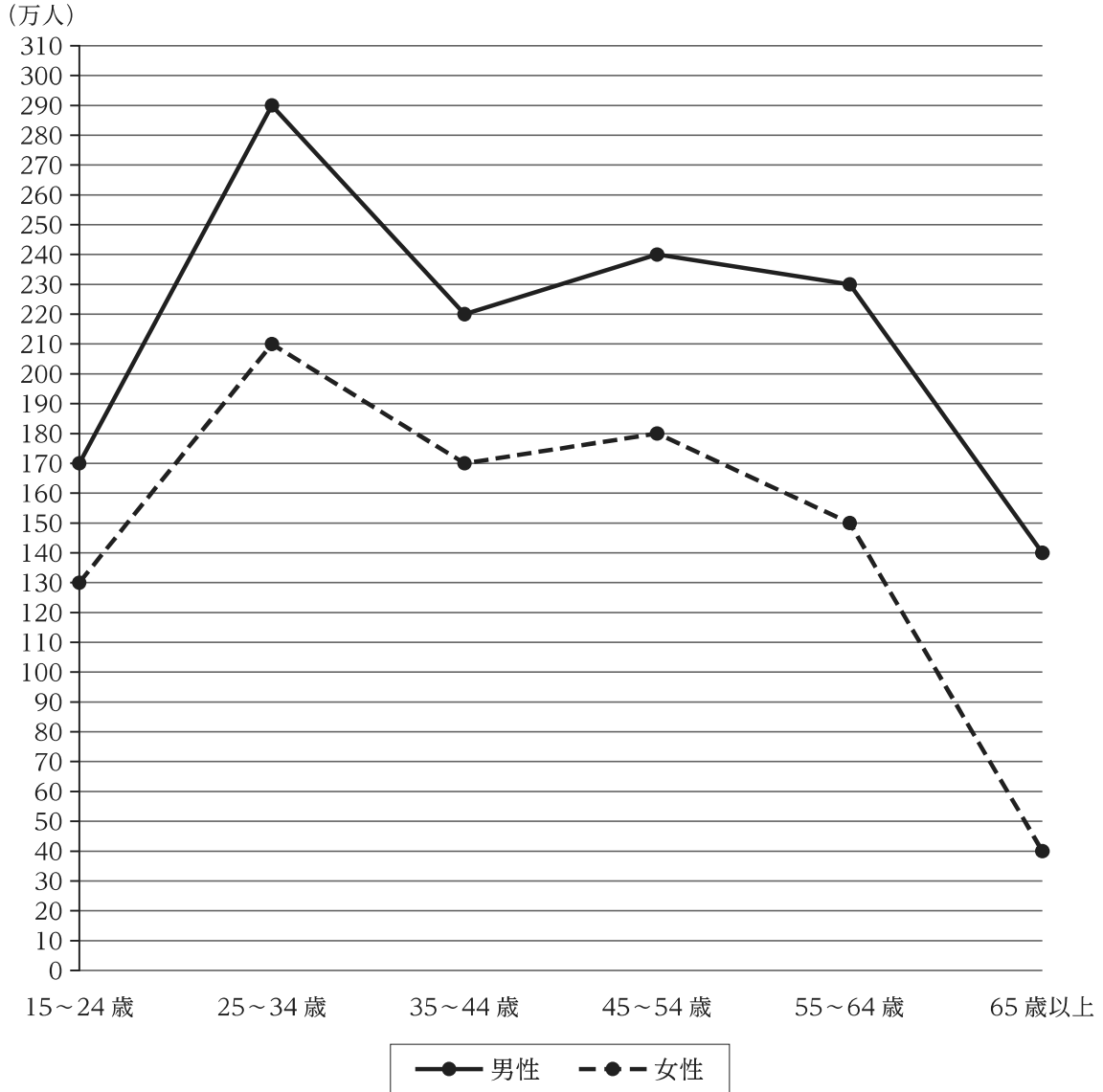
なお、正 n 角形の内角の和が $(n - 2) \times 180^\circ$ であることを用いてよい。



1. $8\sqrt{3} + 5\pi$
2. $8\sqrt{3} + 6\pi$
3. $9\sqrt{3} + 5\pi$
4. $9\sqrt{3} + 6\pi$
5. $9\sqrt{3} + 7\pi$

【No. 22】 図は、ある国の 2022 年における年齢階層別の完全失業者数を男女別に示したものである。これから確実にいえることとして最も妥当なのはどれか。

なお、完全失業者とは、15 歳以上の労働力人口のうち、就業者を除くものをいう。



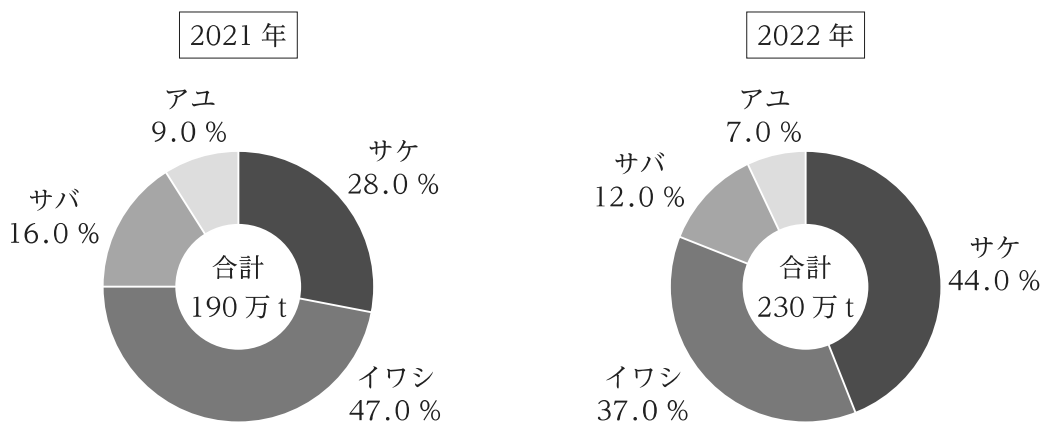
1. 年齢階層別に男性の完全失業者数に対する女性のその割合についてみると、「65 歳以上」を除く全ての年齢階層で 70 % を上回っている。
2. 男女別に、それぞれの完全失業者数全体に占める年齢階層別の完全失業者数の割合についてみると、割合が最も大きい年齢階層でも、男女共に 20 % を下回っている。
3. 20 歳代の完全失業者数についてみると、男性の方が女性よりも多い。
4. 女性の完全失業者数全体に占める女性の年齢階層別の完全失業者数の割合(%)についてみると、「25～34 歳」の割合は「45～54 歳」の割合を 10 ポイント以上上回っている。
5. 男女あわせた完全失業者数全体のうち、55 歳以上の者が占める割合は 20 % を上回っている。

【No. 23】 表は、ある国の 2013～2022 年における、漁業生産量及び養殖業生産量の推移を示したものであり、図Ⅰ及び図Ⅱは、2021 年と 2022 年における、漁業生産量及び養殖業生産量のそれぞれの魚種別割合を示したものである。これらから確実にいえることとして最も妥当なのはどれか。

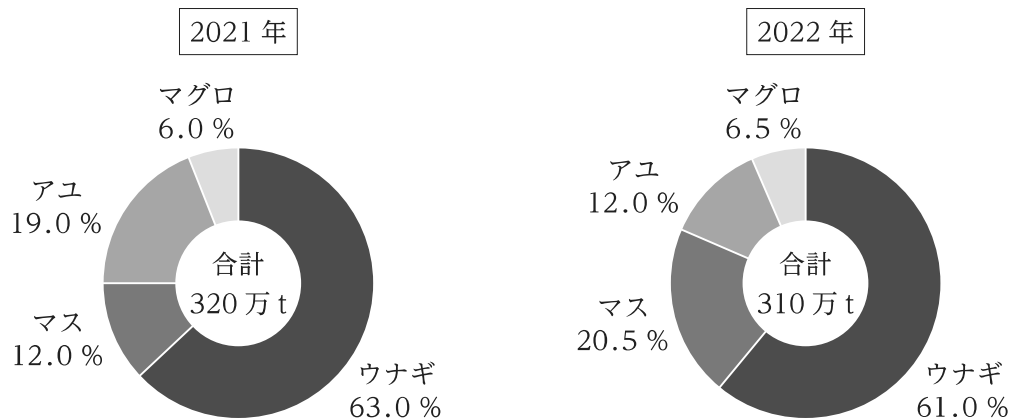
表 漁業生産量及び養殖業生産量の推移
(単位：万 t)

年次	合計	漁業	養殖業
2013 年	616	311	305
2014 年	648	313	335
2015 年	690	330	360
2016 年	632	280	352
2017 年	631	255	376
2018 年	571	270	301
2019 年	533	220	313
2020 年	514	224	290
2021 年	510	190	320
2022 年	540	230	310

図Ⅰ 漁業生産量の魚種別割合



図Ⅱ 養殖業生産量の魚種別割合



1. 2013～2022年についてみると、漁業生産量と養殖業生産量の合計に占める養殖業生産量の割合が最も高いのは、2019年である。
2. 2014～2022年についてみると、養殖業生産量の対前年増加率が最も大きいのは、2014年である。
3. 2022年についてみると、アユの養殖業生産量の前年からの減少量は、アユの漁業生産量のそれよりも15万t以上多い。
4. 2022年についてみると、ウナギの養殖業生産量の前年からの減少量は、6万tよりも少ない。
5. 2022年についてみると、養殖業生産量が前年よりも増加している魚種はない。

【No. 24】 表は、ある国のA～H地域における2007年と2022年の森林面積、人工林面積、国有人工林面積を示したものである。これから確実にいえることとして最も妥当なのはどれか。

(単位：ha)

	森林面積		うち人工林面積		うち国有人工林面積	
	2007年	2022年	2007年	2022年	2007年	2022年
	A地域	5,538,469	5,536,144	1,505,246	1,456,447	665,357
B地域	634,445	633,209	274,355	263,477	160,330	155,252
C地域	1,174,467	1,169,302	502,035	481,800	115,604	103,913
D地域	839,183	839,290	410,115	406,591	137,511	130,791
E地域	667,238	669,218	184,331	184,647	68,353	64,202
F地域	861,586	855,084	163,953	161,125	154,174	149,030
G地域	1,059,821	1,066,951	445,965	442,927	61,853	60,022
H地域	612,897	611,576	199,230	201,493	27,567	26,480

- 2022年についてみると、A～H地域のうち、森林面積に占める人工林面積の割合が最も大きい地域は、森林面積に占める国有人工林面積の割合も最も大きい。
- 2022年についてみると、A～H地域のうち、森林面積に占める人工林面積の割合が最も小さい地域は、人工林面積に占める国有人工林面積の割合が最も大きい。
- A～H地域のうち、2007年に比べて2022年の森林面積が減少している地域は、人工林以外の森林面積も減少している。
- A～H地域のうち、2007年に比べて2022年の森林面積が減少している地域は、森林面積に占める人工林面積の割合も減少している。
- A～H地域のうち、2007年に対する2022年の森林面積の増加率が最も大きい地域は、人工林面積のそれも最も大きい。

< 出典 >

・No.1

今西錦司、「生物の世界」、講談社

・No.2

塩川伸明、「民族とネーションーナショナリズムという難問」、岩波書店

・No.3

湯浅博雄、「贈与の系譜学」、講談社

・No.4

鷲田清一、「〈ひと〉の現象学」、筑摩書房

・No.5

Copyright Guardian News & Media Ltd 2025

・No.6

"Study offers a new view of when and how governments distribute land" by Peter Dizikes from MIT News, Apr 27, 2023. Reproduced with permission of MIT News Office.

・No.7

From TIME. © 2023 TIME USA LLC.. All rights reserved. Used under license.

<https://time.com/6333257/social-media-addiction-study/>

・No.8

Can houseplants purify the air in your home? by Christine Ro. Reproduced with permission of BBC News.

・No.9

Used with permission of Dow Jones & Company, Inc., from The Productivity Boost Missing From Your To-Do List, Alexa Corse, The Wall Street Journal, 2024; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.

・No.10

Move fast and mend things: The super-rich are trying new approaches to philanthropy, from The Economist, Jan 10, 2024 © The Economist Newspaper Limited, London 2024.

CP-2024 基礎能力 I

正答番号表

No	正答	No	正答	No	正答
1	1	11	2	21	3
2	3	12	5	22	5
3	4	13	2	23	3
4	2	14	1	24	2
5	3	15	1		
6	4	16	2		
7	4	17	3		
8	4	18	3		
9	1	19	5		
10	4	20	5		

CP-2024 基礎能力 II

正答番号表

No	正答	No	正答	No	正答
1	4	11	1	21	1
2	5	12	2	22	1
3	2	13	5	23	1
4	2	14	3	24	5
5	4	15	4	25	3
6	3	16	5	26	4
7	3	17	2	27	3
8	2	18	1	28	1
9	4	19	3	29	5
10	4	20	5	30	2